

会 議 録 (要 旨)

会 議 名	令和2年度瑞穂町子ども・子育て会議（第2回）	
開 催 日 時	令和3年3月16日（火）午後6時30分から午後7時30分まで	
出席者及び 欠 席 者	【出席者】委員10名、事務局3名、子育て応援課3名 合計16名 【欠席者】委員2名	
次 第	1 開 会 2 会長あいさつ 3 議 題 (1) 瑞穂町病児・病後児保育利用料補助事業について (2) 第2期 子ども・子育て支援事業計画及び進捗状況等管理について 4 連絡事項 5 その他 6 閉 会	
傍 聴 者	0名	
配 布 資 料	当日配布 ・次第 ・資料1 瑞穂町病児・病後児保育利用補助金を開始します	
内 容 (主な意見等 を原則として 発言順に記載。)	1 開 会 2 日野会長あいさ つ 3 議 題 (日野会長) (保育・幼稚園係長)	<p>会長より、あいさつ。 皆さんの意見を通し、瑞穂町が住みよい子育てに適した場所になるといいと思う。</p> <p><u>(1) 瑞穂町病児・病後児保育利用料補助事業について</u> 瑞穂町病児・病後児保育利用料補助事業の定員について。保育・幼稚園係長から説明。 「瑞穂町病児・病後児保育利用料補助金を開始します」という配布資料より、子育て応援課で令和3年度から病児・病後児保育利用料補助金の事業を開始します。 子どもが病気によって保育園や学校等に登園・登校させることが困難であり、保護者が仕事等の理由で看護できない場合の、保護者の子育てと就労の両立を支援し、経済的な負担軽減をはかるもの。 現在、町内に病児・病後児保育施設がないことから、ベビーシッターや他市施設を利用した際の利用料の一部を補助する事業として実施するもの。</p>

		<p>事業概要は、1つ目は、町が指定する事業者が提供するベビーシッター等を利用した場合の訪問型病児・病後児保育サービス、以後訪問型サービス。2つ目は近隣市で当事業を実施している施設を利用した場合の施設型病児・病後児保育サービス、以後施設型サービス。対象者は、生後57日目以降から、小学校6年生までで、瑞穂町在住の児童及び保護者であり、配布資料に記載の対象施設を利用していること、利用日の前後5日以内に病気で医療機関を受診していることを要件とする。</p> <p>訪問型サービスについては、補助対象経費は、利用日における保育に係る費用。入会金、年会費、登録料、交通費等の諸経費その他これらに準ずる費用は対象外。補助金額は、ひとり親世帯および住民税非課税世帯は1日25,000円を上限として、利用料の10分の10を補助する。それ以外の世帯は、同じく1日25,000円を補助上限として、利用料の5分の4を補助する。児童1人に対して、年間補助上限額は50,000円。</p> <p>次に、施設型サービス。補助対象経費は、施設型サービス利用に係る費用。ひとり親世帯および住民税非課税世帯は、利用料の10分の10を補助する。それ以外の世帯は利用料の2分の1を補助する。施設型サービスについては、児童1人に対しての年間補助上限額はない。</p> <p>補助金の交付については、支払い方法は償還払い。本日配布資料と同様のものを、町内の保育施設等、認可保育所、認定こども園、幼稚園、小規模保育事業所と学童保育に通っている児童と保護者の方に令和3年度になったら配布する予定。</p> <p>(日野会長) 素晴らしい新事業が始まる。何か質問はあるか。</p> <p>(池田委員) 瑞穂町には病児・病後児保育の施設がないということだが、近隣だとどこにあるのか。</p> <p>(保育・幼稚園係長) 近隣だと、羽村市、福生市に施設型サービスを利用できる施設がある。</p>
--	--	---

<p>(池田委員)</p>	<p>いくつあるのか。</p>
<p>(子育て応援課課長)</p>	<p>福生市と羽村市に病児、病後児がそれぞれ1つずつで計4つある。医療機関が病児保育を行っているが、そちらでは、おそらく病後児も受け入れてもらえる。</p> <p>近隣市で、市外在住の方も受け入れをしているのは、羽村市と福生市である。その他の市では、市内在住の方限定となっている。</p>
<p>(池田委員)</p>	<p>施設が4か所あって、何名まで利用できるのか。</p>
<p>(子育て応援課課長)</p>	<p>その市の方が優先ということもあり、その日にいっぱいになってしまうと、利用が難しいこともある。</p>
<p>(池田委員)</p>	<p>朝申し込むのか。</p>
<p>(子育て応援課課長)</p>	<p>病院に行ってから申請になる。必ず病気であることの確認をとってから補助金の対象となる。</p> <p>羽村市では、小児科の病院でサービスを行っているところがあり、小児科で受診してそのままや、相談などという方法も。</p>
<p>(日野会長)</p>	<p>他に質問等は。</p>
<p>(中田委員)</p>	<p>市内の人が優先だと、瑞穂町の人が入りづらいのでは。せっかく補助金が出てありがたい事業なのに、利用をしたいのにできない人がいて、そういう人には保証があるとは思いますが、その先のものがあつた方が良い。</p>
<p>(子育て応援課課長)</p>	<p>現在、瑞穂町では小児科のみの病院がないこともあり、なかなか施設を建設することや、町内の医療機関にお願いしても病児・病後児サービスができないといった中で、今、段階的に、これを補助金としてだして、瑞穂町の状況を見させてもらう。他市の施設を利用できなかった場合のため</p>

		<p>に、ベビーシッター利用もあわせて制度化して対応していく予定。ただし、これですべて瑞穂町は補助が完了というわけではなく、今後、保育園や医療機関など施設建設が可能であれば、今後も研究しながら進めていく。まずは、この補助金で皆様の負担を軽減しようと、段階的に進めていこうというところです。</p> <p>（中田委員） サービスを利用できた人は補助金がもらえるが、サービスを利用したかったができなかった人の拾い上げもしていかないと、補助金の申請が少なかったから、利用者が少ないととられて終わってしまうのではないか。サービスの利用ができなかった人の拾い上げを考えていかないと。</p> <p>事業・サービスの拡大というのであれば、使いたい人が使えないから瑞穂町で何かして欲しいと思っている人がいるからできた事業なのだとは思っているので、やはり、申し込んだのに使えなかった人たちへの救済も考えてほしい。</p> <p>（子育て応援課課長） そういう方々を拾うというのは難しいが、使った方がいれば、償還払いで瑞穂町の役場に来るので、そのような方に声をかけて、本人や周りの人の状況を聞くなど、情報収集はしていく。</p> <p>（中田委員） ぜひお願いします。</p> <p>（日野会長） ほかに何かあるか。</p> <p>（子育て応援課課長） 先ほど、資料を保育園等に配布すると説明があったが、まだ、各園の園長に伝えていないので、改めてお願いをする。</p> <p>また、周知については、対象が幼稚園に通われている方、保育園を利用されている方、学童保育クラブを利用されている方ということなので、各施設の関係者の方には、改めてお願いさせてもらおう。</p> <p>（日野会長） 周知の方法は、資料の配布以外には考えているか。</p>
--	--	---

<p>(子育て応援課課長)</p>	<p>広報とホームページ、児童が集まる施設にチラシの設置を予定している。</p> <p>後は、口コミが大事だと考えている。</p>
<p>(戸谷委員)</p>	<p>健康課のほうでモバイルサービスを提供していて、0歳児の登録率が97パーセントとなっているが、そこで周知するということはできないのか。</p>
<p>(子育て応援課課長)</p>	<p>健康課と調整します。</p>
<p>(日野会長)</p>	<p>周知の仕方はいろいろ工夫を凝らしてお願いします。</p> <p>議題2にうつる。</p>
<p>(事務局)</p>	<p><u>(2) 第2期 子ども・子育て支援事業計画進捗状況等管理について</u></p> <p>事前送付資料の訂正について。「量の見込みと確保方策」の13ページ(10)子育て援助活動支援ファミリー・サポート・センターの事業の実利用者数②の数値を291から273に訂正。また、利用者内訳の延べ291人も、273に訂正。「計画の体系」の3ページ(1)地域の子育て家庭の支援③親子交流事業等の拡充の1子育てひろばの拡充の達成度がEからBに訂正。</p> <p>全体的な話として、Eの達成度が10か所になっている。10か所のうち、9か所は新型コロナウイルス感染拡大防止のため事業が実施できなかったものである。達成度が下がってしまっているものは、1部の実施しかできなかったものであり、新型コロナウイルス感染症の影響が大きかったように思う。達成度がEのもう1か所については、先ほどの議題でもあった病児・病後児保育利用料補助事業であり、令和2年度までは実施がなく、令和3年度からの実施なので、来年度から達成度が変わる予定。</p> <p>事前質問について。2名の委員からいただいた。それぞれ各担当係長より回答する。</p>

	<p>(子ども家庭支援センター係長)</p> <p>(事務局)</p>	<p>談できる場として、各事業の終了後に「仲良しフリータイム」を実施している。令和2年11月から令和3年1月までの3か月間で45名からの相談を受け付けた。そのほか、随時相談を受け付けている。3つ目は、地域の子育て関連情報を提供する場として、行事、パンフレットの設置や案内をできるスペースを設けている。4つ目は、子育て支援に関する講座を実施。今年度は、講師を招いてバランスボール教室、フラワーアレンジメント教室、ダンス教室を実施。</p> <p>子ども家庭支援センターでは、子育てひろばではないが、交流事業であれば、読み聞かせ事業やリズム遊びなど、年間を通して実施している。</p> <p>3点目は、事務局より、教育指導課の指導係からの回答を伝える。</p> <p>19ページの地域との連携で、今年度地域の方がボランティアとして学校に行けたのか、学びのテーマパークは実施できたのかという質問だが、緊急事態宣言が解除された令和2年6月から放課後学習学びのテーマパークを実施したが、令和3年1月の緊急事態宣言の発令により、学校の放課後活動は、すべて中止となったので、学びのテーマパークも中止となった。学びのテーマパークでは、各学校で地域コーディネーターが声がけした地域の方を、学習支援員として、来てもらっている。学習支援員は、学習サポーターなどが多いが、有償ボランティアとしてきてもらうこと、フューチャースクールの関係の学習塾講師にも指導者としてきてもらうこともあった。宣言が出ていないときは、学びのテーマパークは各校週1回小学校3年生以上を対象に実施していた。</p> <p>続いて、戸田委員からの質問について。「量の見込みと確保方策」の3ページ、(3)3号認定の認証保育所がなくなったことによる待機児童対策について、認可保育園に移行されたら、受け入れ人数は増えるので良いのではない</p>
--	-------------------------------------	---

		<p>かと思っただが、何か問題があるのか。</p> <p>同資料の5ページ、延長保育事業の保育料減免対象世帯への適正対応の追及について、コロナの影響で、経済的に大変になっている家庭へも、対応はあるか。</p> <p>同資料7ページ、ショートステイについて、恵明学園のショートステイは、就学前までの児童が対象なので、他にも受け入れてもらえるところがあれば教えてほしい。以上、各担当係長から回答を。もう1つの質問は先ほどの3つの質問に回答した後に答える。</p> <p>1つ目の質問、「量の見込みと確保方策」の認証保育所のなくなったことによる待機児童対策について。認可保育園に移行したのは、令和2年度はびよびよ保育園である。認証保育所は、みずほすみれ保育園のみになったが、みずほすみれ保育園が10月で閉園になったことによって、認証保育所が、瑞穂町には1つもなくなった。ただ、令和3年度当初については、待機児童は0となっているが、令和3年3月1日時点では、11名の待機児童がいる。年度末には待機児童が発生するというので、そのような意味では、認証保育所がなくなったことによって、懸念が残ることになる。ただし、令和3年度には、みずほひじり保育園の建て替えも終了して、定員も74名から90名に増員されるので、引き続き待機児童対策に取り組む。</p> <p>2つ目の保育料減免対象世帯への適正対応の追求に関して、延長保育事業に係ることになるので、特に新型コロナウイルス感染症についての対応はない。ただし、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、延長保育の利用は自粛をお願いしている状況。新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため登園自粛や、児童が罹患した場合、また、濃厚接触者に認定された場合には、通常の保育料の減免はしている。</p> <p>小学生以上のショートステイ受け入れ先は、ショートステイの6市町、青梅・福生・羽村・あきる野・日の出・瑞穂の協議会でも、度々取り上げられている。今は受け入れ</p>
	(保育・幼稚園係長)	
	(子ども家庭支援センター係長)	

	<p>(事務局)</p>	<p>先がないのが実情だが、この学齡児への対象年齢拡大は、協議会で東京恵明学園と協議しているところ。受け入れてもらえるかは、まだ今度の話となってくるが、協議会のほうで話を進め、検討している段階。</p> <p>次に、戸田委員より「計画の体系」の13ページの施策についても質問があったため、そちらも回答します。</p> <p>13ページの学校における食育の推進施策に関して、食育推進、食品ロス削減についてということで、給食の食べ残りの量と処分対応がどうなっていますか。SDGsの取り組みが、ニュース等でもすごく取り上げられています。以前、廃棄にかかる費用が200万円以上かかっていると聞いたことがあります。今、どれくらい残り、処分費用にかかる費用は、どれくらいなのか、知りたいです。また、飲まれない牛乳の量も多いと聞いています。うまく、利用される対策は取られているのか、なるべく食品ロスにならないように取り組んでもらいたいです。という質問をいただいた。学校給食組合、給食センターから資料をもらい、事務局より回答する。</p> <p>まず、給食の食べ残りの量と、処分対応がどのようになっているかという点について、食材の使用しない部分の野菜くずと、残渣（食べ残し）、どちらも一緒になって、1kg40円で業者の方に買い取りをしてもらっていて、堆肥に変えている。その量は、令和元年度は給食残渣および一般ごみとして、福生・羽村・瑞穂を合わせて5万8650kg。40円と消費税をかけると、258万600円。</p> <p>飲まれなかった牛乳については、必ずセンターで回収をするようになっている。乳製品なので、回収した時点でも時間が経過すること、また、衛生面で、国の法律等で定められた様々な規制があり、なかなか、他のところで活用や利用は難しい。また、各家庭から給食費を徴収しているので、それを残ったからといって、別のところで何か利用ということも難しいという回答があった。</p>
	<p>(日野会長)</p>	<p>事務局からの説明と、事前質問の回答をいただいたが、</p>

		これ以外に質問等はあるか。
	(戸谷委員)	「計画の体系」13ページ、「食」に関する学習機会の充実に農ウォークについて載っているが、いわゆる子育て世帯といわれる人の参加がなく、60代、70代の方の参加がほとんどだったので、子育て世帯の実施の中には含まれないのではないかと感じた。子育て世帯向けに実施してもいいと思うので、それであれば、モバイルサービスの方で、告知をして募集をする形にした方が同世代の、子育て世帯が集まるので、そこでまた交流の機会もできるのではないか。
	(子育て応援課課長)	貴重な意見ありがとうございます。 産業課に今の意見を伝える。
	(日野会長)	ほかに質問等は。
	(中田委員)	「量の見込みと確保方策」3ページ、待機児童の件で、今いる待機児童が11名ということだが、3～4年前に、保育園に落ちろという話がネットに流れたと思うが、待機児童母には2パターンいて、どうしても今働きたいからという人と、別に、産休は、自分は長くとりたいが制度上申請しないともらえないからどうしても申請をしたが、でも別に保育園に入らなくていいですという母がいる。ただ、待機児童に計算されるのは2園以上申請している人だから、この11名は、どうしても働きたくて待っているということなのか。
	(子育て応援課課長)	その通り。
	(中田委員)	なら、やっぱりその11名をどうにか。書類を出しに行く時点で、担当の方がだいたい、急いで決めたほうがいいのか聞かれたりするので、優先順位はあるのかなと思うけど、そうしたら。0歳児ですよ。

	(子育て応援課課長)	<p>大体、通年、当初0人になっているが、0歳児は生まれてきて増えてきて、0歳児の枠は狭いので、最終的に待機児童が出てしまう。今、係長の方から話があったが、令和3年度は4月になると待機児童が0人になる。おそらく、今待機児童になっている人たちが入れるようになってくるということで0人になっている。毎年、その繰り返しになっている。</p>
	(中田委員)	<p>私は、1番最後に埋まる場所に入れているので、大体0歳児が埋まると、これで全部0人になったんだなと思っているが、この11名をどうしてあげたら。2園以上いれているけど、とりあえず4月には入れるから待っていてねとするのか、もっと手厚くしていったほうがいいのか。どうなのかなといつも思う。</p> <p>ひじりも枠が増えるというが、0歳児の兄弟で埋まってしまうと。</p>
	(子育て応援課課長)	<p>結果そうになっているかもしれないが、利用調整をするときに、得点を付けるが、その際兄弟がいると2点加点になるだけである。入りやすくなることは事実。瑞穂町の規模だと、兄弟がいる人が入れてしまうことが多いが、区部では、兄弟がいても入ることができないこともある状況となっている。</p>
	(中田委員)	<p>3月になると、毎年この話をしているが、待機となっている人をどうにか入れてあげることには力を注ぐべきなのではないか。</p>
	(子育て応援課課長)	<p>定員の拡大をしていく予定だが、今、逆に減ってきている部分もあり、西のほうから減ってくるということなのだが、逆に今度は空きが出てくることを見越しながら、進めている。</p>
	(中田委員)	<p>群がるかなと、ずっと思っている。人気のある所は入れないが、もう、保育園とかはガラガラとか。そこがすごい、</p>

		<p>気になっている。</p>
	(子育て応援課課長)	<p>そこは、量と質の問題で、質をどう上げていくかというところは、町からしたら全園の質を上げていく。後、瑞穂町に空きが出ないように、町外からの児童等を踏まえながら進めていく。</p>
	(中田委員)	<p>羽村市では、どこの保育園に行かせようか迷っていて、ここの保育園はあれをされていて、あちらの園は…と特徴があるが、瑞穂はあまり、特徴がない。だから、近いところにとりあえず入れちゃおう、とあまり特徴がないので、もうちょっと保育園ごとの特徴がはっきりするといいと思う。もっと特徴をアピールすべき。</p>
	(子育て応援課課長)	<p>ありがとうございます。</p>
	(日野会長)	<p>ありがとうございました。他に質問は。</p>
	(戸谷委員)	<p>「計画の体系」30ページ3チャイルドシートの徹底ということで、関係各課と連携し、幼稚園や保育園等からチャイルドシート使用対象世帯への効果的な広報啓発の方法を検討する必要がある、となっているが、以前中田委員が提案していたように、おまわりさんに朝、声掛けをしてもらったり、立ってもらえたりするだけでもすごく効果があると思うので、検討してほしい。</p>
	(日野会長)	<p>他に何か。</p>
	(戸田委員)	<p>ずっと子育てサークルを増やせたらいいのではないかと議題に上がっていて、児童館でも子育てひろばの後に、仲のいい人で作れますよと案内してきて、児童館の幼児室にも、サークル作りませんか、サークル作るのにこういう相談機関があって相談に乗りますよという表示もしてきた。4月から、「森の探検隊」という、六道山で親子で自由にその日に集まって、自然の中でプログラムもなく自由</p>

		<p>に遊びましょうという形で1つサークルを作るということで生まれました。いろいろ、サロンにしようか、わんぱくクラブは、社会教育課で生涯学習団体に登録して活動させてもらっているが、生涯学習団体にするか、また相談に乗っていたが、とりあえずあまり縛りがない自由な形でやりたいということで、サロンにも生涯学習団体にも登録をしないで、4月からスタートするサークルになる。その時に思ったのが、町で子育てサークルって何があるか聞かれたときに、どこがそれを把握して、案内できるのかということだ。</p> <p>どこか1か所が、生涯学習団体と子育てサークルはこれと、サロンだったらこういう子育てサークル、登録はしていないけどこういう子育てサークルの集まりもありますよと把握している窓口を作っておいたほうがいいんじゃないかと思った。それぞれがそれぞれで活動しているので、横のつながりや、情報提供をする部分に、ほかに何かないかと感じる部分がある。そこを、どこかの課が窓口になって、一覧にするなり、情報を把握しておけるような、形にしておいてもらえるといいなあという要望。もしかしたら、お母さんたちで何となくどこかで集まってサークル化しているところもあるかもしれないので、そういうのがもっといっぱい出て、幼稚園に上がるまでの短い期間であっても、ママたちが気軽に集まって、サークル的に何組か活動するっていうことを拾って行ってあげると、より活性化すると思う。要望という形でお願いしたい。</p> <p>(中田委員)</p> <p>それは、健康課のアプリ等に入っているのか。</p> <p>そこで、募集で瑞穂町のサークルとして、子育てサークルの募集等の掲載をしたらよいのではないか。</p> <p>(子育て応援課課長)</p> <p>その団体がどういう団体なのかを、町がすべて情報収集して、発信ということではなくても良いと思う。もし、町が管理をすることになったとして、始めました、辞めましたなど、全てを報告しなくてはいけなくなってしまう。代表者の方の考えもいろいろあると思うので、一概に町が</p>
--	--	--

		<p>サークルを見つけたので、サークルの情報をすべて流してください、ということをやっとうしいと思う人もいると思う。</p> <p>(戸田委員) 内々でやりたい人もいると思う。</p> <p>(子育て応援課課長) なので、そこは代表者の方がうまく町を使ってほしい。</p> <p>(中田委員) 町からじゃなくて、子育てサークル募集したい人は、このアプリのここに連絡すれば、このアプリに登録できますよといったものなどで、自主的に動いていくとか。</p> <p>確かに、町から声かけてとなると、そこまでではないと思うので、アプリに載せて募集できますよって、紹介できるから、興味ある人は声かけてくださいみたいにして置いて、声のかかったサークルを載せる等できればいいのではないか。そのかわり、載せた人は、必ず辞めたりしたら教えてねっていう条件にはなるとは思います。</p> <p>(戸田委員) もう、チラシは結構あっちこっち色々、森の探検隊さんは、いろいろな施設に掲示させてもらっていて、問い合わせもあって、何組か一緒にとってもらっている、と言っていたので、ぼちぼちでもスタートできるかなという感じ。</p> <p>その、状況は、子育てサークルは瑞穂町って何か参加できるのがあるのかなって、知りたいなあってなった時に、知っている人がいれば紹介できるが、何も、誰も、情報を持っていなければ、教えることもできないということがあったので、何か、どこかが、ある程度把握をできるようにしておくのがいいのかなという要望です。</p> <p>(日野会長) 以前学校に勤めていた時に、瑞穂学という学問の中に、この瑞穂町が素晴らしい環境、いろいろな資源を持っている、そして、その資源をうまく活用しながら、本当に子育て世代の人たちがうまく活用できるように、うまくコーディネートできるような、そういう取り組みを町が中心とな</p>
--	--	---

		<p>るのではなくて、町がアシストするような感覚で行うとい いのではないか。</p> <p>他に。</p>
(池田委員)		<p>「計画の体系」7ページ、保育の質の向上に令和2年度 も3年度も保育士研修の実施とあるが、具体的に保育士に どういう研修をさせて、どういう効果を得ているのか。</p>
(子育て応援課課長)		<p>今年に限っては、研修は1度、虐待関係の研修。児童相 談所の所長を呼んで、保育士がその子を見たときに、どう 気付いたらいいか等ということで、講演いただいた。毎年 指向を変えて行っているが、例えば、安全管理という面で 警察署の方を呼んで、不審者が来た時の対応や、以前の話 だと、よくやっているのは、障がい、発達の遅れがある子 に関する講演は、医師などを呼んで講義を行うなどした。 変わったところでは、保護者の苦情対応で、こういうパタ ーンはこういう風に対応しましょうといったものを行う こともあった。</p>
(池田委員)		<p>年間を通じて何回くらいか。</p>
(子育て応援課課長)		<p>管理栄養士を呼び、給食の講演も行っている。アレルギー 対応の講座等、それらを含めると、年3回。</p>
(池田委員)		<p>場所は。</p>
(子育て応援課課長)		<p>場所はいろいろ。コミュニティーセンターや、けやき館 のホールなど、人数によって異なる。給食であれば、20 人程度なのでコミュニティーセンターの部屋を借りるな ど。今年は、スカイホールで所長さん呼んだ。</p>
(池田委員)		<p>ありがとうございました。</p>
(戸谷委員)		<p>「計画の体系」27ページ、地域と協働で進める子育て 支援のコミュニティづくりで、おひさまキッチンについて</p>

	<p>(古川副会長)</p>	<p>報告してほしい。</p> <p>開催した。参加が、予想以上に多かった。対応については、距離を保たなければいけないということで、待たせてしまう時間もあった。2回目よりも3回目の方がスムーズにできた。4回目以降は、コロナの関係で緊急事態宣言が出てしまい、行えていないが、その中で参加してくれた親御さんが、1年生の子どもがどんな風に食べるのか見てみたかったということで、1回目は親子で参加したが、2回目以降は、子どもだけでいいですかということで、家だと全然食べないのに、子どもがこんな風に食べるんだって喜んで帰った方もいる。また、場所は、生涯学習センターを借りていたが、学校の教室で給食が出てくると思って待っていた児童もいた。時間ぎりぎりに校長先生に対応してもらって、食べられたが、そういう子もいた。</p> <p>手洗いと消毒は、外の水道が使えなかったなので、トイレの水道を使うには、子どもたちのスリッパや、様々な対応が必要となり、子どもが歩く動線の中の水道1つで対応をした。手はキッチンペーパーで拭いて捨てるようにしたため、周りが濡れてしまったりと、本当に緊急な流れの中でも、人生経験豊かな人の集まりだったので、手際よく、いただいたものをパッと持ってきてくれる人がいたり、食べた後の流れについても、手際よくできたのではないかと思っている。</p> <p>ただし、まだ、本当に炊き立てのおにぎりだったり、作り立てのお味噌汁を飲ませたい、という希望とは全然かけ離れていて、今は、インスタントの提供しかできていない。新型コロナウイルス感染症の影響もあり、来てくれるかな、という状況の中だったが、1小の子どもたちは集まってくれた。校長先生のPRもよかった。集計等も学校側も暖かい協力をしてくれたので、いい形で進みだしたかなというところで、コロナの関係なので、コロナだからやめよう、来なくていいよっていう流れでいたが、でも、来てくれて、そのあとに誰も体調を崩すことがなかったようなので、一安心。</p>
--	----------------	--

<p>(戸谷委員)</p>	<p>ニーズはあるということか。</p>
<p>(古川副会長)</p>	<p>はい。</p>
<p>(戸谷委員)</p>	<p>具体的に何人くらい来たのか。</p>
<p>(子育て応援課課長)</p>	<p>1回で40人超える程度。</p>
<p>(日野会長)</p>	<p>石坂校長先生から補足はあるか。</p>
<p>(石坂委員)</p>	<p>大人のスタッフがすごく充実していた。学校としては、場所の提供という形。スタッフたちは毎回朝早いということもあり、なかなか大変そう。</p>
<p>(古川副会長)</p>	<p>そうですね、7時20分集合で、終わるとすぐ撤収。でも、朝おにぎりだけを取りに行ってくれる人という形で、すごく老人会の方たちも、子どもの声を聴くことで、元気がもらえたという声がある。 いい形で進めると思っている。</p>
<p>(日野会長)</p>	<p>ぜひ、長く続くことを祈っている。 ほかに質問があるか。 なければ連絡事項を事務局から。</p>
<p>4 連絡事項 (事務局)</p>	<p>事務局からは特にない。</p>
<p>5 その他 (子育て応援課課長)</p>	<p>ここで、子ども・子育て会議及び委員の任期が終了となる。2年間ご協力いただきまことにありがとうございました。初年度は回数を重ね、計画を策定でき、令和2年度から、この計画に基づいて実施していくということになるが、引き続き委員となる方も、これで退任という方もいるが、2年間ご協力いただき厚く御礼申し上げます。</p>

	6 閉会	
--	------	--